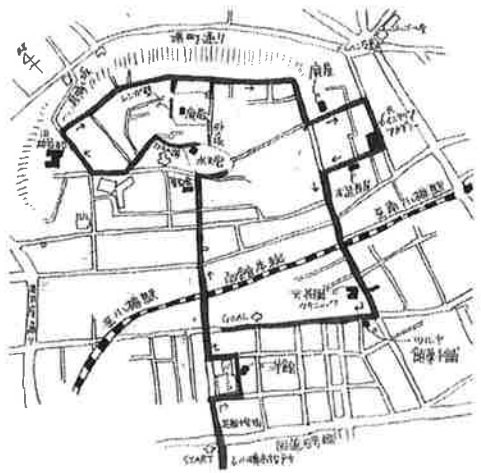


WADAO

建築士会
女性委員会



小樽まち歩記

小樽支部 本間 恵美

雪がちらつく11月23日、「まち歩きをしよう!」と、7名が小樽市役所前に集合した。案内役の松浦さんが用意してくれた地図を片手に歩き出す。パチンコ店の裏通りに入ると洋館があった。このあたりは飲食店街でよく知る地域なのに初めて通る道だ。「こんな家があったんだ!」と一同驚く。次は水天宮へと向かう。聖公会(教会)を横目に、久々に水天宮への急な階段を上る。ちょっと息がきれる。水天宮の境内からは小樽の港が一望できた。



外人坂の長～

水天宮の境内で

い階段は、昨日からの雪で覆われ足元が危なそう。それならと、けもの道?を通ることに。

一列になって笹藪の中を下りて行く。

旧板谷邸の前を右に折れてしばらく進むと、屋敷跡のレンガ壁が見えた。中に入ると、崩れたレンガ造の蔵だけがぽつんと残っている。屋根はとおの昔に失ったらしく、中には高く育った木が生えていた。崖の下は観光客で賑わう堺町通りだが、そんな喧騒もここには届かない。静かに時だけが過ぎているようだ。



けもの道?を行く

その後、木造長屋などを眺め、化粧直しをした元花園クリニック前を通り、最後にツルヤ餅菓子舗を見る。赤レンガの煙突が印象的なこの店は、小樽の人なら皆知っているだろう老舗だ。一時間半くらいかけてゆっくりと見て回った。よく知っている地域でも、住宅街はなかなか歩く機会も少なく、楽しい発見がたくさんあった。



残された蔵

今年も、第二弾のまち歩きを待っているところだ。

今年も、第二弾のまち歩きを待っているところだ。

東京での仕事、人、住宅・・・

高木 宣恵

私は大学も、これまで勤めた会社もすべて札幌の中で完結しており、生まれてから一度も札幌を離れたことがありませんでした。東京に行きたい！という志向もなく過ごしてきたのですが、ひよんなきっかけから、東京にある会社に転職することになりました。今年の4月でやっと1年経過です。転職先は、住まいの総合的な情報を発信したり、住まい手の支援をする会社で、私の入った部署では主に「建て主の立場に立って、第三者的に家づくりをサポートする仕事」をしています。

東京に来てからは、カルチャーショックを受ける毎日です。まず人について。会社に入って驚いたのは、働き盛りの年齢の家庭を持つ男性がアルバイトで、かなり年下の正社員に使われている、ということが珍しくないという状況。それと、一緒に仕事をする仲間や仕事の連携先、外注先の人に、きつい性格!?芯の強すぎる人!?が多いということ。相手が年上でも、クライアントでも特に関係なく、思ったことはハッキリ主張する人が多い感じがします。また、とても優秀で感じの良い人から、ものすごく感じの悪い人までの振幅が大きく、札幌で仕事をしてきた中では出会ったことのないような人が沢山いて、人の層の厚さを感じさせられます。

次に、東京の住宅について。新築の住宅ではやっと、断熱材をすべての箇所に入れることが一般的になってきたようです。ペアガラスも比較的使われることが多くあります。私は東京に来るまでは「夏に重きを置く住まいで暮らせる東京は冬でも寒くないはず」と思っていたのですが、冬は札幌より寒いと感じる日が多く、東京では暑さより寒さの方が辛く感じます。それはずっと東京で暮らしてきている人たちも同様で、最近の建て主の要望に多いのは、冬あたたかい家にしてほしいということです。しかし、ここで問題なのは建築家の方々も、いままで一度も冬あたたかい家に住んだことがなく、どの程度の仕様で、どの位あたたかくなるのか実感していないということです。東京の建築士の方々には、冬に北海道に来ていただき、新しい北海道の住宅（北方型住宅）を見学し、屋根につららもなく、室内はほっかほか、という居住環境を体感してもらいたいと思っています。私はまだ1年しか東京に住んでおりませんが、北海道の方が、人の品格も、住宅の品質も高く、外に出て、あらためて北海道の良さを感じている毎日です。

エコロジー・セミナー『木材編』

旭川支部 赤木 希好

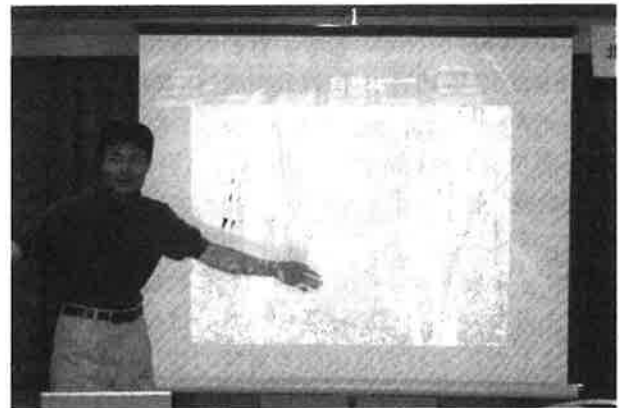
平成20年1月20日女性部会総会後の勉強会として『北海道の森の木を知ろう』というタイトルで、昨年『ストローベイルハウス見学会』でお世話になりました。NPO 法人森林再生ネットワーク北海道代表陣内氏に講演をお願いしました。

北海道に住んでいながらよく知らない道産材について樹木の種類と特徴、用途、地産地消との関り、エコロジーの観点から見た森林の役割について、木材・樹木・森林に関する知識を深めたいという会員の声に答えた勉強会です。

地球温暖化防止のための二酸化炭素吸収源である森林の機能・重要性、間伐材の利用による森林整備

森の生態・森づくりから木材まで、木の生理・木材の扱い方をスライド写真ならびに木片を手にしなが、森の現状と木材の性質について、また森に対する熱い思いを語っていただき質問にも丁寧に答えていただきました。

森林→樹木→木材の製造過程を意識し、木材の取扱に関して再確認をする機会となりました。



森を判りやすく説明していただきました



講師の陣内さんと（参加者 15名）

FSC 森林認証住宅を見学して

道東Bブロック 山岸百合子

昨年、11月10日に美幌町に建設中のFSC森林認証住宅を見学し、FSCとは何か、また活用状況等を勉強しました。主要構造部から間柱、窓台、垂木に至るまで町産材(カラマツ)が使用され、木材にはFSCマークの焼印が押されています。知床にある道の駅うとろ・シリエトクにも、認証材で作製した商品の陳列棚があり、ここオホーツク圏内で徐々に広がりをみせています。あまり聞き慣れないFSCとは、Forest Stewardship Councilの略で、森林管理協議会ともいいます。この協議会は、木材生産関係者、環境NGOなどが集まり、世界の森林を監視する、非営利・非政府の国際組織として活動しています。FSCは「森林管理のための10の原則と56の基準」に基づき、適正に管理された森林を認証します。FSCの認証を受けた認証機関が認証作業を行い、認証には2つの制度があり1つにFM認証(森林管理を対象にした認証)2つ目は、CoC認証(木材加工流通の認証)製材工場などの木材製品の管理を対象とした認証で、一般材が混じらないように管理されているかなどの審査が行われます。美幌町では、平成17年10月に美幌森林組合を代表とするFSCグループ認証を取得しました。FSC森林認証取得面積は、3,028haで、構成員は町(町有林)、民間企業、団体、個人の22者となっています。道内では、下川町に次いで2番目、国内では23番目の取得です。美幌町は、網走管内でも有数の民有林所在地でありながら今まで林業については後進地区でもありました。木材の自由化や需要の変化などにより製材所が次々に閉鎖され、林業従事者も最盛期の半分以下となりましたが、今回のFSC森林認証の取得は美幌町内の森林を守るのみならず、資源として活用するチャンスと、環境に配慮しながら森を育てることが、林産業また地域全体の持続的な発展につながろうとしています。昨年からの建設業界へのバックアップとして「美幌町産材活用住宅助成制度」を設け、町民が町産認証材(主にカラマツ材)を活用して、CoC認証を取得した町内の建設業者で70㎡以上の住宅を新築又は増築等をした場合に、建主が助成金を受取ることができる制度です。町産認証材の使用量1㎥に対して3万円を乗じ、総額で30万から75万円までの範囲となっています。この制度を利用するユーザーが増えてきていることは確かです。

第1回女性委員会 報告

委員長 早川 陽子

- ・とき：1月22日(土)午後1時～3時30分
- ・ところ：士会事務局会議室
- ・出席者：榮、早川、東、本間、山岸、米本、工藤、吉川、北村、高見、早田、新海

1. 今年度は新委員でのスタートとなります。

委員長：早川(小樽)

副委員長：東(札幌)、山岸(美幌)、米本(旭川)

委員：工藤、新海(札幌) 吉川(空知) 高見(旭川) 北村(苫小牧) 早田(釧路) 大槻(函館)

連合会委員：山本、本間(7月より)

2. 平成20年度 予算

・723,000円

3. 平成20年度 事業計画

*3部会活動・・・他団体との研修会

① 高齢社会とまちづくり…出前講座募集中

② 子どもと建築…研修会の準備

7/30(水)全道高等学校家庭科教育協議会

③ 環境と共生する住宅部会

*女性建築士の集い・・・苫小牧で開催します

・10/6(日)講演と見学会(イコロの森)

*全道大会・・・分科会の企画と運営

・子ども、環境を中心に地域活動の情報収集

*全国女性建築士連絡協議会・・・東京です

・テーマ「住み替え」(仮)7/18(金)19(土)

基調講演、パネルディスカッション、

分科会：コメンテーターとして参加

・冊子「素材のゆくえ」発行予定



今年1年 よろしくお願ひ致します!!